

1. 評価報告概要表

作成日 平成 年 月 日

【評価実施概要】

事業所番号	1070201106
法人名	社会福祉法人白水会
事業所名	グループホームマイライフ
所在地	群馬県高崎市寺尾町字中台1453-1 (電話) 027-320-7000

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成19年12月4日

【情報提供票より】(19年 11月 19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 5月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 12人, 非常勤 5人, 常勤換算	11.65人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨構造造り		
	3階建ての,	2階 ~	3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費・通院介助費・自室使用電気費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	1日	円		

(4) 利用者の概要(11月 19日現在)

利用者人数	16名	男性	2名	女性	14名
要介護1	4名	要介護2	6名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	1名		
年齢	平均 81.4歳	最低	72歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岩田病院 サンピエール病院 大田歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

春に桜が咲き、初夏は新緑が輝き、秋には紅葉が美しく、豊かな自然環境に恵まれた観音山丘陵に立地し、ホームのリビングルームからは高崎の町並みが眺められ、夜は夜景が楽しめる。職員は、理念「利用者の基本的人権の尊重、安心できる家庭的な生活、生きがいを持って送れるよう支援する」を、一人ひとりの入居者の生活に具現化し、支援をしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題の取り組みとして、「理念の掲示については、文字の大きさや掲示する高さ等を見やすいように変更する」「緊急連絡網の掲示については、検討し電話機に登録する」「市とは、市の事業受託も含めて連携に努めている」等をしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者と職員は、評価の意義を理解して、全員で評価を行なっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は、2ヶ月に1回開催され、入居者の状況や自己評価及び外部評価の内容等について報告して、出席者からの意見を頂き、運営に活かして質の高いサービスがなされるよう取り組みをしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見、苦情、不安については、入居者や家族の意見が出せるよう意見箱を設置している。また家族からの意見を引き出すための働きかけを行ない、運営に反映されるよう取り組みをしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	山間部に立地し近隣宅が少ない環境にはあるが、地域の行事には積極的に参加し、地域の方がホームに見えるような働きかけを期待したい。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム開設時からの理念に基づき、その人らしく暮らし続ける支援を実践している。制度改正に伴い、地域密着型サービスとしての役割に即した介護を実践しているが、理念の中に言葉として謳われていない。	○	開設以来の理念を見直し、地域の生活支援や地域との関係性を盛り込んだ言葉を考えて表現された理念の内容に期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、ホールに掲示され、管理者や職員は朝礼や会議の折に確認している。介護時の入居者への言葉使いなどに配慮し、日々理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの春の桜見会や納涼祭に地域の方に声をかけたり、地域のどんど焼きに参加したり、近隣の方との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員全員は、自己評価及び外部評価の意義を理解している。前回の評価を活かして、理念の掲示を工夫し、地域の付き合いについては、交流に努力するなど、改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、2ヶ月に1回行われている。会議メンバーは地域の区長、民生委員、入居者家族の代表、入居者、市の担当職員等で構成され、ホームの状況や行事、評価の取り組みなどの報告から話し合いがなされ、意見を頂いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者に、報告や認知症高齢者の対応について等相談をしたり、市と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の暮らしぶりや健康状態は、「マイライフ通信」や請求書等の書類郵送時や家族の面会時等に報告している。金銭管理については、出納帳を見て頂いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に、苦情処理の窓口について説明している。また運営推進会議に家族の代表として出席していただき、ホーム内に意見箱を置き意見を頂けるようにし、それらを運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者へのダメージを防ぐために、職員の異動や退職については告げず、時間が経過したあとで異動や退職の理由を話している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、経験等を考慮して、順番に外部の研修に出席し、その内容を、会議や勉強会で報告し、実際にケアで活用している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の会議や講習会に出席し、同業者と情報交換をしている。また他のグループホームと交換研修をし、活動を通じてサービスの質の向上への取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ケアマネジャーは、入居の希望があると、本人の生活ぶりや健康状態の情報を得るために、家庭や病院へ出向き、本人と面会している。その情報を、職員間で共有し、家族等相談しながら、安心してホームの生活が始められるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、日々関わる時に、自分の親や祖父母のような気持ちで接している。入居者から、煮物の味付けや野菜の切り方等教えてもらい、入居者を介護される一方の立場でなく支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族に、今までの生活のサイクルを伺い、一人ひとりの入居者に、レクリエーションや編み物、裁縫等その時々適切な言葉かけを考え生活支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者が自分らしく暮らせるように、本人・家族・関係者等と話し合い、職員全員の意見が反映されるよう、職員はカンファレンス意見用紙に日頃の生活面での変化や気づき等を記録して提出している。介護計画担当会議で検討し、介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護の目標は、短期3ヶ月、長期6ヶ月の期間で介護計画が作成されている。日々の利用者の状態や状況の変化、家族の希望等については、随時対応し、介護計画の見直しを行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者・家族の状況により、通院や送迎時の支援を行っている。また地域の高齢者が、状況に応じて、ショートステイの利用ができるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の希望するかかりつけ医となっている。基本的には、受診や通院は家族同行の受診となっているが、状況により職員が受診支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、ホームの利用は入居者が経口摂取できる状態までと説明している。重度化に伴ない状態の変化を入居者・家族やかかりつけ医と話し合いをし、看取りもしてきている。しかし、繰り返し話し合いをしているにもかかわらず、医療的支援が必要な状況では全員が方針を共有できない場合もある。	○	早い段階から重度化に伴う意思確認を本人、家族等、かかりつけ医、ケア関係者と話し合いを繰り返し、状態の変化がある毎に本人、家族の意向を確認しその内容を記録し方針の共有を図って行くよう期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の介護時、入居者の誇りやプライバシーに配慮して言葉かけをしている。契約時に、個人情報の取り扱いを家族に説明し、個人の記録等の扱いは他人の目に触れないよう事務室で保管して、秘密保持の徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のペースを大切に、その日の入浴時間や外出等、その他入居者の希望に添うように日常生活の中から細部の気づきを基に支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人内の老人ホーム松風園の栄養士が作成する献立を参考にしながら、入居者の好みを聞いて献立を考え、食事が楽しめるよう工夫している。また、入居者と職員と一緒に食事の準備や後片付けをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、毎日午前中から、好きな時間帯に入浴している。仲の良い方同士での入浴や菖蒲湯、ゆず湯等で楽しめるよう支援している。また、入浴が出来ない場合は、清拭、足浴等で清潔を保持している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、料理の下ごしらえ、盛り付け、後片付け、洗濯や洗濯ものたたみ、掃除等一人ひとりの力を活かした役割をお願いして、感謝の言葉を伝えている。ホームの周りの木々や野鳥を眺めたり、歌の好きな利用者はカラオケを楽しんだり、楽しみ、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者は、野菜や花の水やりをしたり、温かい日は玄関先に置かれているテーブルでティータイムをとったり、食材や日用品の買い物に、職員と車で出かけている。しかし、外出を希望しない入居者は、外出の機会が少なくならないようにいくつかの選択肢を考えている。	○	外出を希望されない入居者等には、家族の応援をいただけるような方法と工夫を検討されるよう期待する。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者と全職員は、鍵をかけることの弊害を理解しており、居室や日中玄関の鍵はかけていない。入居者の保護と安全を考えて、玄関の出入り時にはチャイムが鳴るようになっている。入居者は自由に入出入りができる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回の避難訓練を行っている。その際には、毎回避難方法を検討し確認している。緊急時は、消防署、隣接する老人ホーム松風園の職員の協力をお願いしている。また、食料や飲料水を備蓄している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の好みを聞き、栄養バランスを考えながら栄養士が献立を作成している。職員は、食事や水分の摂取量を記録し、情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の柚子や柿が置かれ、茶碗の洗う音、料理の匂い、音楽等、季節感や生活感を採り入れている。トイレは不快な臭いはなく、洗面所、浴室、廊下等清潔観があり、広いリビングルームにはテーブルや椅子、テレビの前にはソファや炬燵が置かれ、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者、家族と相談しながら、箆笥やカレンダー、時計など使い慣れた小物を持って来て頂き、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。		